

情報サービス産業協会新年例会盛大に開催



郷司会長挨拶

「変化をよんで対応を」

昨年、21世紀スタートの年としてはあまりいい年ではなかったように思います。経済面からみても景気は回復せず、企業倒産は多発、株価は低迷、失業率は上昇、どれをとっても厳しい1年であったと思います。

一方、我々をとりまくビジネス環境も大きく変化していると思います。その変化する環境の中であって誰が最後まで生き残るか。それは強い者でもない。賢い者でもない、もっとも変化に敏感な者だけが生き残るとダーウィンが言っています。今は素早く変化をよん

で変化に適合していくためには、まず我々が変わらないといけません。今我々に求められているのは、変化をよむ勘と変化に適合する知恵であろうと思っています。お互いにこの1年間、大いに勘を働かせて、変化をよんでどう対応すればよいか、知恵をだして考えて実行にうつして頂きたいと思います。

今年もまだまだ景気の立ち直りは期待できずに混迷のときが続くと思いますが、お互いに希望を失わずに立ち向かう気概をもってこの冬の時代を乗り切って行きましょう。

大分県情報サービス産業協会平成14年新年例会が、1月30日15時30分から、大分市のトキ八会館で会員約70名が出席、土居総務委員会委員長司会のもとに、盛大に開催された。

郷司会長より新年挨拶が行われたあと、二宮滋夫大分県商工労働観光部部長と秋月睦夫協会顧問（大分県工業団体連合会会長）の来賓祝辞に続いて、パーティへ移った。パーティは宇都宮孝一協会顧問（大分大学工学部教授）の音頭で乾杯し、曾根崎和人協会顧問（大分県産業創造機構専務理事）の万歳三唱で19時に散会した。これに先立ち、16時から大分県IT推進課長の河野功氏による『大分県のIT推進について』と題した特別講演が行われた。



二宮大分県商工労働観光部部長来賓挨拶



秋月協会顧問(県工団連会長)来賓挨拶

なお、パーティ会場では、平成14年1月26日に当協会が催したサウンズコンテスト（コンピュータによる作曲編曲のコンテス

ト）のグランプリ受賞曲がBGMで紹介され、これを聴きながら和やかな歓談が続いた。（総務委員会より）



和気あいあいの新年例会

2002年 新年特別講演会

日時：平成14年1月30日

場所：トキ八会館

講師：大分県企画文化IT推進課長

河野 功 氏

演題：「大分県のIT推進について」

大分県では、県と市町村が連帯して高速情報通信基盤を積極的に推進しています。その中でITにより大分県の目指すものとしては、

1. 地方分権の確立、分散型社会の実現
都市に負けない県内高速情報通信基盤の整備をし、地方においても東京都と同じ情報を共有できる。またデータセンターの整備と地域IXの構築をする。
2. 地域活性化、産業振興
豊の国ハイパーネットワークの県民利用とITを活用したビジネスの地方展開をしていきたい。
3. 地域の獨創性の発揮、固有文化の創造
地域から世界に情報発信できる基盤及び人

材の育成

これらを実現するための県政策として、

《第1に基盤の整備》

大分県（県庁・県の機関）と市町村役場を大容量の光ファイバーで結ぶ『豊の国ハイパーネットワーク』事業を行っています。これは、電子自治体実現のために国の補助を受けて光ファイバーを自設し、他県のような通信事業者に対する多額な回線使用料が不要となる仕組みで、14年度中には他県と市町村を光ファイバーでネットワークされるよう完成を目指している。また、全国初の本格的データセンターの地方展開として、企業誘致という観点からPFI事業の付帯施設として、データセンター設置を義務付け共用開始を行います。

《第2に電子自治体実現》

電子的手法による県の窓口としての汎用受付システム、物品調達と公共事業を分ける電子入札システム、紙の管理（受付から決済・



保管まで) 行う文書管理システム、電子承認システム等々行っていきます。

《第3に人材育成》

豊の国IT塾として、昨年12月まで52,400人が受講されています。またブロードバンドコンテンツ・クリエイター育成事業としまして、ブロードバンドを使った人材の育成をするため、ハイパーネットワーク研究所を事業主体とした教育を行っている。

(総務委員会より)

平成13年度第2回 視察研修実施

オムロン(株) 熊本研究所と 阿蘇薬草園ハーブの里

平成14年2月5日、研修旅行の一行は朝8時大分駅前を出発し、竹田を通って熊本県は上益城郡益城町田原のテクノリサーチパーク内にあるオムロン(株)熊本研究所を最初に視察しました。パーク内には現在16社が入っており、大分のソフトパークより規模が広く建物もそれぞれ立派です。ここオムロンの研究所は研究開発拠点の一つとして京都、筑波に次ぐ3番目のもので、敷地面積3749坪延べ床面積1744坪、鉄筋コンクリート造りで3階建の施設は 制御用コンポーネント関連の先行技術開発 汎用コンポ商品の技術・商品開発 研修の事務局運営及び一部企画を業務内容としている。

組織としては、概要を説明していただいた松岡所長をトップとして34名の研究員を有し、業務・開発・設計・第2材料開発の4つのグループが、エレクトロニクスコンポーネ



オムロン(株)熊本研究所

ンツビジネスカンパニーを構成している。九州の各大学、近隣研究機関、地域企業との共同研究推進、九州地区生産関連会社の技術向上、そして研修・技術交流などによる地域貢献を目的として1991年7月1日設立されました。事業を通してより良い社会づくりに貢献する「経営の公器性」と企業も市民の一員として社会に直接貢献する「社会の公器性」を実践するという企業理念体系に基づき環境宣言、企業倫理宣言、そして企業市民宣言を行って、国内、海外の広範なネットワークを構築しています。

2番目の視察は阿蘇郡長陽村河陽にある阿

蘇薬草園ハーブの里で、阿蘇開拓の祖タケイワタツノミコトが農耕の為に鳥獣の害を除き、あわせて尚武の気を養うために始められたといわれている裾野の狩りが行われていたところで薬草の宝庫となっている。薬草研究家の山名保子による薬草教室を参加者全員が受講し民間薬草療法と漢方薬草療法の違いや薬草の家伝・秘伝の使い方、薬草茶の作り方、又アロマセラピー、環境ホルモン、薬膳料理等の理論を学び、今回も貴重な体験となりました。



阿蘇薬草園ハーブの里



心をこめた技術を
Technology with Heart
太平工業株式会社 大分支店

常務取締役 支店長 **福島 賢也**

〒870-0905
大分市向原西1丁目1番36号
TEL 097-554-1155



第5回「技術研究会」発表会開催

基調講演 立命館アジア太平洋大学助教授 永松 利文氏

日時：平成14年2月15日(金)13:30～16:50 場所：第二ソフィアプラザビル2階 ソフィアホール



郷司会長挨拶



A P U永松助教授による基調講演

技術委員会の2大事業の一つである「技術研究会」の発表会が盛況に開催されました。この研究会は毎年、会員各社の中堅・若手の技術者が集まって、ソフトウェア開発の新技术や情報システムの効率的利用について共同研究の形で活動をしており、今年度も昨年の7月から業務の合間を縫って共同研究を行ってきた4部会がその成果を発表しました。

発表会に先立ち、当協会の郷司会長が「技術研究会は当協会にとって意義がある活動であり、若い人達が一生懸命研究した成果を是非見ていただきたい。」と開会の挨拶を述べられました。

続いて、基調講演を行いました。今年度は立命館アジア太平洋大学、アジア太平洋学部の永松利文助教授を講師としてお招きし、「社会システムとしてのメディア・コミュニケーション」の演題で1時間、お話を伺いました。永松先生のご専門は「社会情報学」という学問で、これは「あらゆる時代の人間社会を対象とし、「情報」という視点から人間社会を解明しようとする学問」だそうです。

講演は「地域社会における地域文化とメディアの関係、地域社会の成立過程にメディアがいかに関わってきたか」と言った、多少アカデミックな内容でしたが、先生曰く「米国では、技術開発において社会理論の意識が馴染んできつつあり、人間工学とか人間の精神文化などを考慮しつつ、技術革新と向き合っ

ていくのがトレンドとなりつつある。」とのことでした。

その後、研究部会の発表会に移り、今年度は「J A V A部会」、「X M L部会」、「G I S部会」及び「U M L部会」の4部会が、それぞれの研究テーマに沿って30分程度、



発表会風景

研究成果の発表を行いました。

各部会の研究テーマと発表の要旨は別表のとおりです。

最後に、当委員会の中野委員長が各部会の部会長に、約7カ月間の研究活動に対して感謝の言葉を述べ、報奨金を手渡して労をねぎらいました。

「技術研究会」は毎年、その時々の情報技術に合った部会を選定して会員各社に参加者を募り、数カ月間の共同研究をする形式で実施しております。今年度で5回目を迎えました。発表会や論文集の発行及びホームページでの公開とそれなりの成果と実績を上げています。今後も皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、各部会の論文集は当委員会のホームページで公開しております。是非一度、ご覧いただければ幸いです。

(技術委員会)

研究テーマと発表の要旨

- J A V A部会 テーマ：『携帯J A V Aプログラム設計』
要旨：昨年度のプログラムを基に、オブジェクト指向設計でダウンサイジングへの取り組みと検証結果について発表。
- X M L部会 テーマ：『X M Lを利用したシステムの実例』
要旨：実際のシステムを構築した結果を基に、X M Lを適用した場合の各種考察について発表。
- G I S部会 テーマ：『G I Sの基礎及び適用分野』
要旨：G I Sとは何か、G I Sの仕組み及び適用した事例と課題について発表。
- U M L部会 テーマ：『U M L入門』
要旨：オブジェクト指向の標準規格としてのU M Lの意義と表記方法について発表。

システム開発・システム運用

ファームバンキングサポート

代金回収サービス

ネットワーク社会を生きる
企業のベストパートナー

大分銀行グループ
大銀コンピュータサービス

〒870-0045 大分市城崎町2-6-31
TEL(097)537-5918 FAX(097)534-4545

第10回 サウンズコンテスト ON THE COMPUTER 開催

日時：2002年1月26日(土) 9:30～12:00 会場：大分市オアシス21地下1F 映像小ホール

第10回を迎えた「サウンズコンテスト ON THE COMPUTER」は1月26日大分市のオアシスひろば21の地下1階 映像小ホールで盛況のうちに開催されました。

当日は会場の都合で開催時間が午前となり、この時間帯は初めてのことで集客に不安を抱えながらのスタートとなりましたが、雨模様にもかかわらず多くの方々にご来場を頂きました。

今年は38名の方から44曲の応募を頂きましたが、何れの曲もレベルが高く、本選に臨んだ応募者の皆様も大変緊張されていました。会場内に曲が流れると、応募者の皆様とは正反対にリズムに合わせて楽しんでおられる聴衆の方々印象的でした。

審査は、審査委員長に大分大学教授の田村洋彦先生をお迎えし、他3名の審査員を加え総勢4名で厳粛に行われました。なお、今回から審査に加わって頂きました日本文理大学の星芝貴行先生は、コンピュータミュージックで博士号をお取りになり、昨年より大学に着任され講師として活躍されている新進気鋭の先生です。星芝先生の専門分野が当コンテストの成長にとって欠かせないものになるの

入賞者

	氏名	年齢	地区	タイトル	賞金・楯・賞状	副賞
グランプリ	橋本 一彦	42歳	大分市	Firefly Dancing～蛩～	賞金30,000円 賞状(大分県情報サービス産業協会)	オーイーシー賞 日本IBM賞
オリジナル曲部門1位	吉村 しのぶ		大分市	THE EXPRESS TRAIN	賞状(大分県情報サービス産業協会)	トキハ賞 日立賞
オリジナル曲部門2位	長田 兄弟		野津町	アルカイック・ファンタジー	賞状(大分県情報サービス産業協会)	I V Y賞 日本電気賞
オリジナル曲部門3位	奈方 雪之利	29歳	大分市	Wedding of LOVE	賞状(大分県情報サービス産業協会)	日本電気賞 富士通賞
編曲部門1位	新久保 拓彌	18歳	大分市	春の海	賞状(大分県情報サービス産業協会)	トキハ賞 NTT大分賞
編曲部門2位	酒本 貞昭	55歳	別府市	キャラバン	賞状(大分県情報サービス産業協会)	I V Y賞 日本電気賞
編曲部門3位	パッパ・デュオ・ジャパン		野津町	希望のアリア	賞状(大分県情報サービス産業協会)	日本電気賞 富士通賞
審査員特別賞 (大分合同新聞社賞)	和田 彰三	40歳	大分市	凌雲	楯、賞状(大分合同新聞社)	K C S賞
審査員特別賞 (エフエム大分賞)	指原 隆	48歳	挾間町	北風のセレナード	楯、賞状(エフエム大分)	エフエム大分賞

ではと関係者から熱い期待が寄せられています。

新体制の審査の結果、みごとグランプリに輝いたのは橋本一彦氏の「Firefly Dancing～蛩～」で、前々回より2度目の受賞となりました。

また、最終審査の間、会場の皆様にスペシャルトークとして、音楽療法士の深川富美代先生より「音楽が心と体を元気にする？」というテーマでお話を頂きました。音楽の力が人を癒すということをユーモアを交え、判りやすく聞くことが出来、大変勉強になりました。

今回は、各マスコミ関係に早めの後援をお願いしたことが、事前の告知や当日の取材につながり、協会のPRとサウンズコンテストに対する理解を深めて頂くためには大変有効だったと思います。また、毎回、協会の賛助会員各社様に、入賞の副賞として多くの記念品をご提供頂いていますこともコンテストが長きに渡り開催できる大きな要因となっております。

第10回という節目のコンテストを関係各位のご指導、ご支援のもと無事終了出来たこ

とに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、グランプリ曲、およびオリジナル曲部門1位の2曲につきましては、次のアドレスよりダウンロードして聴くことが出来ますので、多数のアクセスをお願いいたします。

<http://www.oec-net.or.jp/~oisa/sounds/>
(イベント委員会)



グランプリの橋本氏



音楽療法士の深川先生

審査委員

	氏名	審査歴
審査委員長	田村 洋彦	6回目
	大分大学教授(音楽科) 九州作曲家協会会長	
審査委員	郷司 潔	3回目
	大分県情報サービス産業協会会長 樹オーイーシー	
審査委員	星芝 貴行	1回目
	日本文理大学講師(情報メディア科)	
審査委員	白石 洋一	2回目
	大分県情報サービス産業協会会員 新日鉄ソリューションズ株	

ご提供頂きました賞品は左記のように使わせて頂きました。誠にありがとうございました。

フレッシュさん紹介 今後ともよろしくお願ひいたします。

大分シーイーシー(株)
第一システム部
吉田 洋之
趣味：映画鑑賞、
スポーツ観戦
好きな言葉：自分らしく



大分中央電算(株)
システム開発部
石井 剛
趣味：映画鑑賞、読書
スポーツ観戦
好きな言葉：飛躍



九州東芝エンジニアリング(株)
半導体・液晶システムグループ
山中 友美子
趣味：ドライブ、カラオケ
好きな言葉：成せば成る



今年の春で入社して1年になります。入社当時は、不安と緊張の連続で、与えられた仕事をこなしていくのに精一杯だったのを思い出します。先輩社員の方々のアドバイスやサポートに支えられ、今では会社の雰囲気にも慣れ、徐々に知識・技術も身に付き仕事も楽しくなってきました。

しかし、思ったようには行かないことが多く、自信や責任感というものにはなかなか繋がっていきません。

今は自分にとって新しい大きな情報源である仕事を着実にこなし、結果を出すことが、これからの自信に繋がるということを感じて頑張っていきたいと思っています。

入社して間もなく1年になります。入社当初は自分が本当にソフト開発ができるのか不安な毎日でしたが、先輩方の指導により、プログラムの分析・開発の要領が少しずつ解っていきました。

今では社会人としては慣れましたが、仕事に関してが壁にぶつかることはかりで余裕などまったくありません。

今後はもっとソフト開発の腕前を上げて自信と余裕がもてる毎日にしていきたいのですが...。真面目に考えたら自信と余裕がもてる日は来ないよと先輩に言われました。

私は普段、整理整頓を心がけるようにしています。

先日、会社の机の中に積み重なっていた資料をファイルにまとめたところ、今までは探すのに時間がかかっていた資料もすぐに見つかるようになりました。そして資料をファイルにまとめながら、入社してから今までのことを振り返ってみると、1年があっという間に過ぎていったなあと思いました。始めは不安もたくさんありましたが、周りの先輩たちに支えられ、その不安がすぐなくなりました。まだまだわからないことがたくさんありますが、4月からは後輩も入ってくるので、良い先輩になれるようにしっかり頑張っていこうと思います。

お客様の『ITパートナー』を目指します。

ソフトウェアの研究 / 開発 / 適用支援 / コンサルティング
大分地区でのソリューション販売 / システムサポート
パッケージソフトの開発 / 販売
インターネットセキュリティ診断・監視サービス

株式会社 富士通大分ソフトウェアラボラトリ

〒870-8551 大分市東春日町17-58

電話:097(534)8109 FAX:097(532)8522